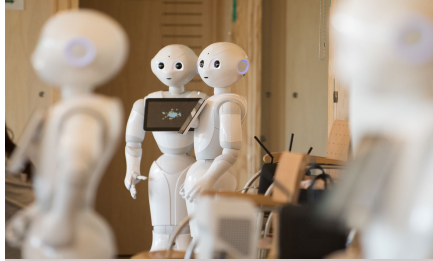


デジタル化と市場経済の未来—サイバー文明の夜明け—



2021年05月15日(土)

5限 (16:30~18:00)

開催回 : 4回

受講料 : 15,000円 (税込)

学期	春学期前半	講座番号	21108
教室	オンライン講座	形式	レクチャー形式
備考	・1回(90分)、全4回の講座です。・掲載内容は2021年4月1日時点の情報です。		

講座概要

IoT、クラウド、AI、5Gなどの技術は、あらゆるモノの追跡可能性（トレーサビリティ）を高め、19世紀の第二次産業革命以来の大量生産した商品を匿名の大衆に販売するという前提を大きく変えつつある。

既に、モノ、カネ、ヒト、情報の全てがつながり続ける中でサブスクリプションモデル、シェアリングモデルなどが急速に展開しつつある。

この流れは最終的には、所有権を金銭を媒介にして移転させるという市場経済の根本を本質的に変化させる流れになるだろう。

このような技術・経済・社会の変化を的確に理解するために必要な基礎知識を学び、未来社会の姿を受講者とともに探索するシリーズとしたい。

修了条件

全講座回数の4分の3以上の出席および担当教員による判定

講師紹介

國領 二郎 慶應義塾大学 総合政策学部 教授・慶應義塾常任理事

1982年東京大学経済学部卒。日本電信電話公社入社。1992年ハーバード・ビジネス・スクール経営学博士。1993年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授。2000年同教授。2003年同大学環境情報学部教授などを経て、2009年総合政策学部長。2005年から2009年までSFC研究所長も務める。2013年より慶應義塾常任理事に就任し、現在に至る。主な著書に「オープン・アーキテクチャ戦略」（ダイヤモンド社、1999年）、「ソーシャルな資本主義」（日本経済新聞社、2013年）がある。

スケジュール

日時	内容
2021年05月15日(土) 5限 (16:30~18:00)	主題：情報技術と社会システムの共進化 説明：技術と社会が相互に相手に影響を与えながら進化するメカニズムを「トレーサビリティ（追跡可能性）」という概念を例に出しながら解説する
2021年05月22日(土) 5限 (16:30~18:00)	主題：IoT、AI、クラウドがもたらす根源的な経済構造の変化 説明：新しい情報技術が全てのモノを可視化することで、社会構造を変えていく姿について議論する
2021年05月29日(土) 5限 (16:30~18:00)	主題：「みえる社会」の経済原理とビジネスの姿 説明：「ネットワーク外部性」などデジタル技術がもたらす新しい経済構造の原理について解説する
2021年06月05日(土) 5限 (16:30~18:00)	主題：サイバー文明の夜明け 説明：農業文明、工業文明につづく、新しいサイバー文明の姿について考える

受講のお申込み

開催回：4回	受講料：15,000円（税込）
--------	-----------------

講座概要

【実施日程】

春学期前半：5月15日、22日、29日、6月5日

春学期後半：6月19日、26日、7月3日、10日

春学期補講：6月12日、7月17日

秋学期前半：9月25日、10月2日、9日、16日

秋学期後半：10月30日、11月6日、13日、27日

秋学期補講：10月23日、12月4日

【募集形式別受講料・募集人数】

講座I（レクチャー形式、全4回）：1.5万円、70名

講座II（ゼミ形式、全8回）：10万円、20名



三田オープンカレッジ公式ページ

<https://www.moc.keio.ac.jp/>

三田オープンカレッジ事務局連絡先

keio-moc@withus-inc.co.jp

